

全農育成の良食味水稻品種 「湘南6号」の現地導入

全農農産物商品開発室では、水稻の品種育成を行っており、良食味品種「湘南6号」の神奈川県内での現地導入について紹介する。

「湘南6号」の品種特性

「湘南6号」は、コシヒカリとキヌヒカリを交配し、系統育種法により育成された良食味品種である。出穂期と成熟期は、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」並みであり、稈長は「コシヒカリ」に比べ約13cm短く、倒伏に強い。収量は、「コシヒカリ」より約11%多い(表-1)。

米質に影響をおよぼす穂発芽性は、「キヌヒカリ」が「やや易～易」に対して、「難」である。食味は、「コシヒカリ」並みであり、粘りが強く柔らかい食感を持つ。

平成20年度の取り組み

●栽培面：概ね順調に生育

神奈川県農業技術センターの協力を得て、神奈川県内の3JA(JAあつぎ、JAいせはら、JAかながわ西湘)に所属する複数の生産者で約3haの栽培を行った。神奈川県の標準栽培期である、5月下旬から6月中旬にかけて移植し、9月下旬から10月中旬にかけて収穫を行った。概ね生育は順調であり(写真-1)、収量は、10a当たり約8～9俵であった。生産された米は、JAと県本部を経て全農パルライス東日本株(以下ZPE)が販売することとした。

●販売面：産直所など店頭精米として販売

「湘南6号」は、県の奨励品種・産地品種銘柄ではないため、「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法(JAS法)」の定めにより、米袋に産地・品種名を明記して販売することができない。そこで、JAの産地直



写真-1 順調に生育した「湘南6号」(JAあつぎ管内)

売所などの店頭精米および口頭で特長を伝えながらの販売を進めている(写真-2)。

「地産地消」の推進ツールに

平成21年度の生産・販売規模については、昨年の販売状況を参考に、JAやZPEとの話し合いのなかで進めていく。また、「神奈川県で育成された」という「湘南6号」の特長をふまえ、県内を中心とした「地産地消」向け商品としての普及も進めていきたい。



写真-2 販売の様子(JAグリーンかながわ)

表-1 「湘南6号」の栽培データ

品種 系統名	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/a)	比較比率 (%)	千粒重 (g)	倒伏
湘南6号	8/10	9/17	78	18.2	329	52.5	111	21.2	0.3
キヌヒカリ	8/10	9/17	83	17.3	298	52.6	111	21.1	0.0
コシヒカリ	8/10	9/18	91	18.7	336	47.2	(100)	20.5	3.0

注) 倒伏は0(無)～9.0(全倒伏)までの達観判定
平成17年～19年に平塚市で行った生産力検定試験の平均値

【全農 営農・技術センター 農産物商品開発室・村岡賢一】